

評価者	市民生活部長	齋藤 和徳
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	勤労者福祉	施策の方針	技能振興の充実
目標とすべきまちの姿	技能者がもつ専門的な技能により市民生活がより豊かになっています。その専門性を生かした市内事業者が、日常生活における市民のニーズにこたえることで、市民生活の向上に貢献しています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成30年度(2018年度)	35.2%	平成29年度(2017年度)	34.8%	平成28年度(2016年度)	32.7%
	平成27年度(2015年度)	32.0%				

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	0.8%	0.3%	0.2%
	ちょうどよい	1.2%	41.3%	1.5%
	効果不十分	2.8%	1.8%	10.6%

平成30年度(2018年度)

施策の方針全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	1.1%	0.7%	0.2%
	ちょうどよい	0.7%	41.5%	1.4%
	効果不十分	1.8%	1.8%	11.6%

平成29年度(2017年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	1.4%	0.7%	0.2%
	ちょうどよい	0.5%	43.3%	1.8%
	効果不十分	1.2%	1.8%	11.5%

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	0.6%	0.4%	0.3%
	ちょうどよい	1.1%	41.3%	1.9%
	効果不十分	2.1%	3.1%	10.7%

平成27年度(2015年度)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成30年度(2018年度)	15.2%	40.2%	5.1%	39.5%
平成29年度(2017年度)	17.8%	40.2%	3.0%	39.0%
平成28年度(2016年度)	16.9%	41.9%	3.7%	37.5%
平成27年度(2015年度)	17.5%	40.8%	3.9%	37.9%

2 内部評価

(1) 平成30年度(2018年度)の目標

- ①優秀な技能者を顕彰し技能者の経済的社会的地位及び技術水準の向上に努めるため、技能者表彰を実施する。(市民－20)
- ②広く市民に技能者の技術に触れる機会を創出するため、技能職団体連絡協議会と連携して技能祭を実施する。(市民－20)
- ③広く市民に技能体験の機会を設けるとともに後進の育成のため、技能職団体連絡協議会と連携して、小中学校で技能の実演、技能体験の機会を設ける。(市民－20)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成30年度(2018年度)の目標との関連性

①②③技能者表彰を行うことで、鎌倉市における技能者の経済的社会的地位及び技術水準の向上が図られるとともに、技能の習得と向上がより豊かな市民生活の向上に貢献している。また、「技能祭」や「小中学校での技能の実演、技能体験」は、技能の周知や技能職の後継につながり、専門性を持つ事業者が市民生活の向上に貢献する機会の増加につながる。

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
整理番号	事業名	平成30年 度 (2018年 度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年 度 (2018年 度)	令和元年 度 (2019年 度)	平成 30年度 (2018 年度)	令和 元年度 (2019 年度)		事業 内容	予算 規模
市民-20	技能振興事業	368	624	6,754	6,774	0.8	0.8	無	b	B

(4) 主な実施内容

- 【主な実施内容】**
- ①優秀な技能者を顕彰し技能者の経済的社会的地位及び技術水準の向上に努めるため、技能者表彰を実施した。(市民－20)
- ②広く市民に技能者の技術に触れる機会を創出するため、技能職団体連絡協議会と連携して技能祭を実施した。(市民－20)
- ③広く市民に技能体験の機会を設けるため、技能職団体連絡協議会と連携して植木小学校、第二小学校で技能体験(植木剪定)を実施した。(市民－20)
- 【実施できなかった事業とその理由等】**
- ③中学校での技能体験については、市内の全中学校に実施の呼びかけを行ったが実施には至らなかった。(市民－20)

(5) 平成30年度(2018年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切 □ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切 □ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切 □ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切 □ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

・技能職団体の人的資源を活用し、技能職の周知等事業を実施することができた。(市民-20)

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

・市民意識調査結果では、「もっと力を入れるべき」と「現状のままで良い」を合わせると約55%の市民が必要な施策と意識していることが伺えることから、今後も優秀な技能者への表彰を行い、技能者の経済的社会的地位及び技術水準の向上を図ると共に、技能祭で技能を広く披露することで周知を図るとともに、後進の育成のために多くの小中学校で技能の実演を行っていく。(市民-20)

(7) 令和元年度(2019年度)の目標

①優秀な技能者を顕彰し技能者の経済的社会的地位及び技術水準の向上に努めるため、技能者表彰を実施する。(市民-20)

②広く市民に技能者の技術に触れる機会を創出するため、技能職団体連絡協議会と連携して技能祭を実施する。(市民-20)

③広く市民に技能体験の機会を設けるとともに後進の育成のため、技能職団体連絡協議会と連携して、小中学校で技能の実演、技能体験の機会を設ける。(市民-20)

(8) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

①技能者表彰を行うことで、鎌倉市における技能者の経済的社会的地位及び技術水準の向上が図られるとともに、技能の習得と向上がより豊かな市民生活の向上に貢献している。

②③「技能祭」や「小中学校での技能の実演、技能体験」は、技能の周知や技能職の後継につながり、専門性を持つ事業者が市民生活の向上に貢献する機会の増加につながる。

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	市民-20	事業名	技能振興事業							備考
指標の内容	技能者表彰受賞者数					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	優秀な技能者の増加は市民生活の向上に寄与するため。									
	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
目標値		32	32	32	32	32	32			
実績値		22	16	16	20	18				
達成率		68.8%	50.0%	50.0%	62.5%	56.3%				

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・技能者表彰により優秀な技能者を顕彰し、技能者の経済的社会的地位及び技術水準向上に努めるのは大事と思われるが、昨年、一昨年に引き続き、具体的な記述がないため評価があまりできない。

・若年技能者の減少は長期的な課題であり、継続的な長い時間をかけた取組が必要である。

・例年のことだが、本施策の実施内容・取組がどこまで技能振興の充実に貢献しているのかが、全くわからない。技能者人口の推移などを指標とすべきだし、それを達成する為の取組内容にすべきでは。技能者水準の向上のために技能者表彰が効果的であるのかも、疑問である。

・「鎌倉市民評価委員会からの指摘」について、「市民へのメリットは何か」との質問に対して「建築、鳶、菓子、自動車整備、等々様々な技能の向上が市民生活に還元されるものと捉えている。」とコメントしているが、どのような理由又はプロセスを経て還元されるのか明確にすべき。同様に技能者表彰についても明確にすべき。

指摘への対応、コメント等

技能者表彰は、市内の事業所に勤務する人で、免許資格等が定められている職については当該免許資格等を取得している人のうち、①同一職業に30年以上従事している60歳以上の者で、②優れた技能を持ち、他の技能者の模範と認められ、③引き続き、その職業に従事し、指導的な立場にある人を「技能功労者」として、また、①同一の職業に15年以上従事している30歳以上56歳未満の者で、②優秀技能者にふさわしい優れた技能を持ち、後進の模範となっている者で③引き続き、その職業に従事する人を「優秀技能者」として、①同一職業に7年以上従事している者で、30歳未満の者で、②青年技能者にふさわしい技能を持ち、将来を嘱望されている者を「青年優秀技能者」として表彰しています。

候補者は、技能職団体又は同業者の代表者から市長に文書で推薦をいただき、鎌倉市技能者表彰選考委員会の審議を経て公正に決定された人を表彰しています。

昭和49年から44年間、継続して行っており、技能者の社会的地位の一端となっています。

また、表彰を広報かまくらに掲載することで仕事の依頼が増加するなど経済的地位の一端ともなっています。



今後とも継続して技能者表彰や技能祭の開催、小中学校での技能の実演披露(植木剪定)などを行い、多様な「技能職」の周知に努めます。

技能職者の全てが、鎌倉市技能職団体連絡協議会に加盟しているわけではないため、市内の技能者人口の把握は困難です。当該事業が「技能振興の充実に貢献しているのかが、全くわからない。」との厳しい指摘ですが、44年間継続してきた事業であり、技能職者からは「表彰を受けることは励みとなる」と言った評価を得ています。ただ、具体的な数字で表せるものではないため、評価をいただけるような指標を検討します。

市内に優秀な自動車整備士が存在することや建築・鳶職が存在することは、自動車整備や家屋の建築・修繕を市民が依頼するとき、顔のみえる施行業者として安心感が持てたり、交通費などの諸経費も遠方から来る業者よりも廉価になるなどのメリットが期待できます。

また、優秀な菓子職人の菓子は、鎌倉市の特産品になるなど経済効果が期待できます。

なお、技能者表彰受賞者に仕事を依頼したいとの市民からの問合せは毎年あります。

提言

・技能祭を実施し、広く市民に技能者の技術に触れる機会を創出することは重要であるが、具体的な記述がない、具体的な効果が不明など、内容が不明な部分が多く、これらを明らかにする記述を望む。

・専門性を生かした市内事業者の紹介を広報かまくらで保存版として取り上げ市民に周知させたらどうか。

・「指標」の「技能者表彰受賞者数」について、設定理由を「優秀な技能者の増加は市民生活の向上に寄与するため。」としているが、優秀な技能者は市民生活の向上にどの様に寄与するのかについて、具体的に示していただきたい。

質問

・中学校での技能体験については、市内の全中学校に事業実施について説明をしたが機会を設けることは出来なかったとあるが、実態としては、中学校側は興味を示さなかったということか。具体的な効果や内容はシートからは読み取りにくい。

提言に対するコメント等

30年度は10月14日(日)に市役所駐車場で午前10時30分～午後1時30分まで、18技能職団体が参加して開催。約500人の来場者がありました。

- ①鎌倉建築組合(包丁とぎ300円 木工教室 無料。)
- ②大船建築職組合(子供向け大工体験教室 無料)
- ③鎌倉左官業組合(光るドロダンゴ 特殊なドロを用いてピカピカの玉の作製 無料。)
- ④鎌倉畳工業組合(ゴザの販売)
- ⑤鎌倉鳶職組合(「祝い木遣り歌」披露)
- ⑥大船鳶職組合(「祝い木遣り歌」披露)
- ⑦鎌倉板金工業組合(板金作品の販売)
- ⑧鎌倉市管工事業協同組合(衛生器具のカタログ配布)
- ⑨鎌倉石工組合(石の表札作製 1枚3,000円)
- ⑩県電気工事工業組合藤沢地区本部鎌倉地区(テーブルタップの作製 無料)
- ⑪鎌倉造園組合(花苗の配付 無料。)
- ⑫湘南建設組合鎌倉支部造園鎌倉分会(花苗の配付 無料。)
- ⑬鎌倉豆腐組合(豆腐製品の販売)
- ⑭県自転車商協同組合鎌倉支部(リサイクル自転車の販売 5台 1台7,000～8,000円)
- ⇒ ⑮さがみ農協鎌倉市青壮年部緑化部会(花苗の配付 無料。)
- ⑯県自動車整備鎌倉支部(エンジンカットモデルの展示)
- ⑰鎌倉料理飲食業組合(お好み焼きの販売)
- ⑱鎌倉逗葉鍼灸マッサージ師会(ワンコインマッサージ体験)

技能者表彰の際に、広報かまくらに掲載して市民に周知しています。

市内に優秀な自動車整備士が存在することや建築・鳶職が存在することは、自動車整備や家屋の建築・修繕を市民が依頼するとき、顔のみえる施行業者として安心感が持てたり、交通費などの諸経費も遠方から来る業者よりも廉価になるなどのメリットが期待できます。また、優秀な菓子職人の菓子は、鎌倉市の特産品になるなど経済効果が期待できます。なお、技能者表彰受賞者に仕事を依頼したいとの市民からの問合せは毎年あります。

質問に対する回答

⇒ 希望された学校が小学校(30年度は「植木小学校」と「第二小学校」。)だけでしたが、日曜日に行くことから、中学校は部活動や中間・期末試験、学校行事などで、日程が取れなかったものと考えます。中学校に関心の有無について聴取はしていません。

技能振興の充実

評価できるところ

・技能祭を実施し、広く市民に技能者の技術に触れる機会を創出している。技能者表彰により優秀な技能者を顕彰し、技能者の社会的地位及び技術水準の向上に努めた。
 ・技能職者の技術水準の向上や、社会的地位の向上を図るための、長期的、継続的な長いスパンの取組として評価できる。
 鎌倉市の将来にとってよい事業と考えられる。

		評価の内訳		
取組		0	1	7
効果		0	3	- 5

委員会の評価

課題

・技能者表彰により優秀な技能者を顕彰し、技能者の経済的社会的地位及び技術水準向上に努めるのは大事と思われるが、昨年、一昨年に引き続き、具体的な記述がないため評価があまりできない。記述内容が貧弱である。
 ・中学校での技能体験については、市内の全中学校に事業実施について説明をしたが機会を設けることは出来なかったとあるが、具体的な効果や内容はシートからは十分読み取りにくい。

提言

・技能祭を実施し、広く市民に技能者の技術に触れる機会を創出することは重要であるが、具体的な記述がない、具体的な効果が不明など、内容が不明な部分が多く、これらを明らかにする記述を望む。
 ・表彰以外にも、そろそろ他の取り組みを提案すべきではないか。
 ・市民意識調査結果では、「もっと力を入れるべき」と「現状のままで良い」を合わせると約55%の市民が必要な施策と意識していることが伺えるところがあるが、認知度が低い。技能祭等PRにも力をいれてはどうか。
 ・「技能者表彰」は当該業界内で実施されることはあっても自治体が関与すべきか疑問であるし、「事業者支援」であっても「勤労者福祉」とは言い難い。既に「44年間2,720名」の表彰を終えていることから抜本的に見直す必要がある。
 ・技能者への表彰が市民生活の向上に貢献している、と考えているようだが、『表彰 市民生活の向上』の効果については、より具体的に指標で示さないと『貢献している』とは言い切れないのではないかと。例えば表彰者への仕事の依頼数の推移などを指標にした方が効果が見えやすく分かりやすい。